

▶▶▶ 外国につながる子どもへの教育支援共創プロジェクト

外国につながる子どもの日本語支援・ 母語支援を通して、多文化共生の社会を目指す

▶ プロジェクトメンバー

- 長友 文子（日本学教育研究センター）
有馬 専至（紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus）
野村 美雪（紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

和歌山市教育委員会、和歌山県国際交流協会、
和歌山YMCA国際福祉専門学校、
NPO法人 和歌山県日本語教育の会、
岸和田市国際親善協会

プロジェクトの背景

グローバル化が進むなか、各国から日本に来て暮らす外国人が増え、それに伴い、親の事情で日本に来た子どもの数も増加している。それら「外国につながる子どもたち」の増加によって、社会的な課題となっているのが、彼らへの教育支援—日本語が不自由な児童生徒への日本語支援をどうするか、また母語を忘れないための母語支援をどうするか—という問題である。

和歌山でも、数は少ないが、それらの教育支援が必要な「外国につながる子どもたち」がいる。しかし、人数が少ないこともあって、教育支援を行う十分な体制ができていないという事情がある。このような課題に取り組むため、2020年7月に本プロジェクトを立ち上げた。

プロジェクトの目的

このプロジェクトは、和歌山大学の地域貢献の一環として、日本人学生と留学生が、「外国につながる子ども」たちの日本語支援・母語支援の活動を行うというものである。

和歌山大学は県内唯一の国立大学で、教育学部があり、また、近年、各国からの留学生が増加している。将来教員となる日本人学生と留学生が協力すれば、外国につながる子どもたちへの日本語支援、母語交流に貢

献することができる。そして、支援を通して、日本語と母語に挟まれた子どもたちのアイデンティティ形成や、日本人の子どもたちの多文化共生意識の醸成にも関わってゆくことができるだろう。さらに、支援する学生たちの側でも、子どもへの支援活動を通して、多くの事を「学び、気づく」ことができるだろう。

それだけではない。和歌山の各地域には、「外国につながる子どもたち」の支援に取り組んでいる機関や団体がある。それらの情報共有の場を作り、子どもへの支援の輪を広げてゆくことも、本プロジェクトの大きな目的の一つである。

プロジェクトの活動内容

2020年度、2021年度に続き、2022年度は、次の2つの活動を行った。

(1) 外国につながる子どもと留学生の交流

和歌山市教育委員会（以下、「市教委」という）との連携による活動として、これまで同様、外国につながる子どもと留学生の交流を行った。

当該児童がいる学校と児童数について、市教委が調査され、それに基に、受け入れ学校の希望も勘案して、今年度は2校2名の児童を支援することになった。

1校目では、まず、本プロジェクトの担当者、市教委の担当者、該当児童のいる学校長と担任が事前打ち合わせを数回行った。その後、9月から翌年2月まで

合計32回、3人の留学生が交代で、一人の児童と対面での支援活動を行った。

活動の後には、留学生に事後シートを書いてもらい、市教委の担当者とその情報を共有した。

留学生は、教室で子どものそばについて、先生の話で分からない日本語を母語に訳して説明した。これまでと異なり、支援回数が増えたことで、留学生は毎回支援の方法を工夫し、子どもの変化によく気が付くようになった。何よりもよかったのは、留学生と子ども間に信頼関係ができたことである。

12月には、学校からの要望で、当該児童のクラスと他のクラスの子どもたちに、児童の国の文化を、留学生が紹介した。日本の子どもたちは、一人の外国につながる子どもが学校にいることで、異文化にふれ、異文化を理解する体験ができた。

しかし、両国のお正月の違いを留学生がパワーポイントで説明しているとき、日本の子どもたちはその違いに驚いたり喜んだりしていたが、当該の子どもは、違いがわからないようであった。自国のお正月もあまり記憶がなく、日本のお正月も体験したことがないのである。「外国につながる」という問題の複雑さと子どもの将来を、改めて考えさせられた。

もう一つの小学校は、2022年8月から母語支援を希望されていたが、諸事情でなかなか実現できなかった。2023年1月と2月に1回ずつ、子どもの母国の文化紹介を留学生にしてほしいという依頼が学校からあった。クラスの子どもたちは、初めての外国とその文化に大変興味を持ったようだ。

ただ、子どもは帰国すると聞いた。どういう事情で帰国することになったのか知る由もないが、日本の学校での学びの体験、和歌山での生活体験が、将来この子どもの役に立つことを願いたい。

(2) シンポジウム「～地域の力を活かそう～ 外国につながる子どもへの支援」の開催

3年目となる本プロジェクトであるが、これまでの活動を通して、見えてきた課題や今後の活動について考える時期となった。私たちは、子どもたちのために何ができたのかということ振り返り、改めて、これから何ができるのかを考えなければならない。そこで、私たちに何ができるかを、より深く考えるきっかけになればと願って、シンポジウムを企画した。私たちのメンバーだけでなく、同じように「外国につながる子ども」の支援活動をされている方々や、機関、団体と

連携してゆければ、さらに生産的なことができるのではないかと、思ったからである。

「外国につながる子ども」たちが、日本の地で、自分というものを失わず、未来に向かって自分らしく生きてゆくために、私たちに何ができるだろうか。

「外国につながる子ども」たちに対する行政や民間の支援については、全国的にも、また関西でも、進んでいる地域もあれば、まだこれからという地域もある。和歌山は全国的に見ても、外国人数が少なく、外国につながる子どもも少ない散在地域であるが、数は少なくても、抱える問題は多い。子どもたちを支援する団体もいろいろあるが、それら団体が情報を共有しあえることができれば、より大きな取り組みへと発展してゆくにちがいない。

その願いをこめて開催したシンポジウムでは、先ず、文部科学省国際教育課の方に「外国人児童生徒等教育の現状と課題」についての概要をお話いただき、南浦涼介先生の基調講演のあと、本プロジェクトの報告の他、和歌山YMCA国際福祉専門学校、NPO和歌山県日本語教育の会、岸和田市国際親善協会から、それぞれの取り組みを報告して頂いた。会場には定員を超える参加があり、また、オンラインでは他府県からも多くの方々に参加頂いた。

シンポジウムの詳細については、発表用紙報告書を作成、出版し、各機関等に配布した。

プロジェクトの成果

以上、本プロジェクトの活動を簡単にまとめた。

プロジェクトも3年目を迎え、留学生による母語支援活動が、少しずつ形を成しているという手ごたえを感じることができた。和歌山には、外国につながる子どもは、各学校に一人、多くても数名しか在籍していない。また、母語支援の必要性をなかなか理解してもらえない。しかし、プロジェクトを始めて、子どもの抱える問題に真摯に向き合う学校と出会うことができ、シンポジウムを開催したことで、多くの方々と子どもの抱える問題を共有させていただいた。

3年間の活動の成果を踏まえて、さらに活動を続けてゆきたい。

プロジェクトに関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/projects/foreignchildren/index.html>

